

# 名市大東部医療センター未来プラン2021

## ～TOBU Project～

～Team Operations Boosted Unite NCUEMC towards the Future～

### ■ 名市大東部医療センター未来プラン2021で目指すこと

大学病院として、①高いレベルの先進医療を市民の皆様に提供し、「断らない救急」を目指し、その最前線に立ちつつ、第二種感染症指定医療機関としての役割を確実に果たします。また、優れた人材を育成するとともに、研究を推進し、新しい医療の創出を進めます。②戦略的に経営資源を投入し収益の向上を図るとともに、低コストで最大の効果を上げる経営改革を推進します。③地域医療支援病院としての側面から、在宅医療から急性期医療、急性期医療から在宅医療への双方向のスムーズな橋渡しに努め、「循環型の地域包括ケアシステム」を推し進め、市民の皆さまのお役に立ち、選ばれる病院を目指していきます。

### ■ 社会情勢の変化・現状と課題

東部医療センターは、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、早期より患者を受入れ、名古屋都市圏の新型コロナウイルス感染症の重点医療機関としての役割を果たしながら、高度・急性期医療を継続して担っています。また、医療を取り巻く環境は大きな変革期を迎えており、少子高齢化やグローバル化が進展する中で、イノベーションから新たな価値を創造する「Society5.0」の実現に社会が向かっています。さらに新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした新しい生活様式へのパラダイムシフトが起きています。そういった変化する社会のなかで、ポストコロナ時代における東部医療センターの未来をブランド力強化に求め、10年先を見据えた方針を描いていきます。

### ■ 代表的な取り組み

#### 救命救急センターの機能向上による名古屋都市圏でのブランド化

「断らない救急」を目指し、積極的に救急患者を受け入れるのみならず、先進医療を提供します。教育・指導体制の充実・強化により専門医の養成を進め、急性心筋梗塞・急性大動脈解離に対する即時対応や、一次脳卒中センターコア施設としての脳卒中診療の充実などを図り、名古屋市北東部の救急医療の中心となりつづけます。

名市大未来プラン2021 5-(1)

#### 高い専門性と倫理観を有する多様な医療人およびそのリーダーの養成

高い専門性と倫理観を持って活躍できる多様な人材を育成し、質の高い医療を安定して提供します。すべての職種から職場として選ばれる病院、研修医・専攻医から研修病院として選ばれる病院を目指します。専門医取得後は附属病院群および地域医療でのリーダーを目指すためのキャリアパス支援を行います。

名市大未来プラン2021 5-(5)

#### 研究の推進と附属病院群のスケールメリットの活用

附属病院群間の臨床研究ネットワークを構築します。1病院1診療科で実施していた臨床研究・治験を附属病院群全てで同時に実施可能なプラットフォームを創出します。

名市大未来プラン2021 5-(7)

## (1) 名古屋市立大学医学部附属病院群（以下、「附属病院群」という）の連携を進め、一体となった運営の推進（ワンチーム！）

ワンチームの大学病院群として、附属病院群の強固な連携構築を行います。人事交流・人材育成・設備投資による高レベル医療の均てん化を進め、その中で病院特性を創出します。さらに診療情報データを共有し、高度な臨床研究に資する環境を構築します。

名市大未来プラン2021 5-(1)

### 【実行項目】

- ①電子カルテシステムの統一によって病院間を跨ぐ医師の活動の円滑化（2022年度～）
- ②強固なセキュリティを備えたネットワーク環境の整備（2023年度～）
- ③附属病院群間での障壁の無い電子カルテの閲覧システムの導入（2024年度～）
- ④附属病院群に共通の外来・入院・検査予約システム導入（2024年度～）
- ⑤緊急手術等、救急医療への迅速な対応を行うため、附属病院群間の放射線画像データの共有化（2023年度～）
- ⑥附属病院群間のカンファレンスを充実させるためのWEB環境の整備（2022年度～）
- ⑦クリニカルパスの整備を通じた、附属病院群の診療レベルの均てん化（2022年度～）

## (2) 急性期から在宅まで「循環型の地域包括ケアシステム」の構築

患者中心の開かれた病院として安全で質の高い医療を提供し、循環型地域包括ケアシステムを確立します。患者フローの一元管理により、紹介元施設への迅速な情報提供、また逆紹介を可能とするプラットフォームを創り、地域医療支援病院として信頼度を高めブランド化を図ります。

名市大未来プラン2021 5-(2)

### 【実行項目】

- ①附属病院群で心不全サポートチームの発足（2022年度～）
- ②地域連携パスの速やかな整備（2022年度～）
- ③地域医療機関からの診療予約の簡便化（2024年度～）
- ④地域の医療機関を定期的に訪問することによる、さらなる連携深化（2021年度～）
- ⑤登録医数の増加を推進（15%増）登録医のTOBUネット利用率向上（全登録医の50%が目標）（2022年度～）
- ⑥医療機関や市民への情報発信に努め、地域連携医療に対する積極姿勢のさらなるアピール（2024年度～）
- ⑦地域連携にACP (advanced care planning) の考え方を導入し、その人らしい生き方のサポート（2023年度～）
- ⑧健康福祉局との連携によって、疾病予防から医療・介護プログラムまでの連携体制の整備（2023年度～）
- ⑨退院支援会議等を通して訪問看護ステーションとの情報共有を強化（2023年度～）
- ⑩少子高齢化・国際化の医療需要への対応の強化（2023年度～）
- ⑪骨粗鬆症リエゾンサービスの立ち上げなど予防と治療を合わせて考え、服薬継続へのアドヒアランスの維持向上の推進（2024年度～）
- ⑫リモート医療の充実に向けたシステムの構築（2024年度～）

### (3) 地域医療に根差した、市民・地域住民のためのがん診療の確立

地域の医療環境を鑑みた、市民・地域住民のためのがん診療を確立します。高齢者や複数の合併症を有するがん患者の治療を積極的に応需し、近隣病院との差別化を図ります。

名市大未来プラン2021 5-(2)

#### 【実行項目】

- ①がんの統括委員会の立ち上げ（2023年度～）
- ②診療実績・医療施設・診療従事者に関する要件のクリア（2023年度～）
- ③治療方針検討会等（カンサーボード）の設置（2023年度～）
- ④化学療法の拡充（2021年度～）
- ⑤ロボット支援下手術の拡充（2021年度～）
- ⑥リンパ浮腫治療の推進（2021年度～）
- ⑦当院のがん診療体制について地域への広報（2022年度～）

### (4) 高度・専門医療のさらなる充実

高度・専門かつ急性期医療を担う病院として、さらなる機能強化を行います。高度・専門医療の提供というニーズに応えるため、手術支援ロボットなどを含めた積極的な設備整備を進め、専門性先鋭化と戦略的資源投入により名古屋都市圏の医療水準の向上に貢献します。

名市大未来プラン2021 5-(3)

#### 【実行項目】

- ①ER棟の医療機器の更新計画を立案し、名古屋市立大学関連病院群の基幹病院として高度な医療水準を維持し、さらに向上にむけた体制を整備（2023年度～）
- ②ロボット支援下手術に積極的に実施することによる、低侵襲かつ高度な医療の提供（2022年度～）
- ③低侵襲センター内への「ロボット支援下手術トレーニング部門」の設立（2022年度～）
- ④良性疾患に対する機能改善手術のさらなる充実（2022年度～）
- ⑤JMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）取得など医療の国際化への取組強化（2023年度～）

## (5) 愛知県指定のがん診療拠点病院取得

がん領域において、必要な体制整備を行ない、手術、放射線治療、および薬物療法を効果的に組み合わせることによる先進的・集学的治療を拡充し、愛知県指定のがん診療拠点病院の取得を目指します。

名市大未来プラン2021 5-(3)

### 【実行項目】

- ①がんの統括委員会の立ち上げ（2023年度～）（再）
- ②診療実績・医療施設・診療従事者に関する要件のクリア（2023年度～）（再）
- ③治療方針検討会等（カンサーボード）の設置（2023年度～）（再）
- ④化学療法の拡充（2021年度～）（再）
- ⑤ロボット支援下手術の拡充（2021年度～）（再）
- ⑥リンパ浮腫治療の推進（2021年度～）（再）
- ⑦当院のがん診療体制について地域への広報（2022年度～）（再）

## (6) 救命救急センターの機能向上による名古屋都市圏でのブランド化

「断らない救急」を目指し、積極的に救急患者を受け入れるのみならず、先進医療を提供します。教育・指導体制の充実・強化により専門医の養成を進め、急性心筋梗塞・急性大動脈解離に対する即時対応や、一次脳卒中センターコア施設としての脳卒中診療の充実などを図り、名古屋市北東部の救急医療の中心となりつづけます。

名市大未来プラン2021 5-(4)

### 【実行項目】

- ①救急不応需の詳細分析と具体的な対応策の検討（2021年度～）
- ②内科系外科系を問わず小児救急医療体制の充実（2022年度～）
- ③研修医・シニアレジデントの救急診療のレベルアップ（2021年度～）
- ④近隣の一次脳卒中センターから依頼される機械的血栓回収に24時間365日対応できる体制の整備（2023年度～）

## (7) 感染症指定医療機関としての機能の強化

新型コロナウイルス感染制御に難渋する中で、名古屋市のウイルス感染症医療の中心的役割を担い、将来の感染症パンデミックに備えた体制整備を名古屋市との連携のもとに推進します。名古屋都市圏での感染症指定医療機関としての役割を確実に果たしていきます。

名市大未来プラン2021 5-(4)

### 【実行項目】

- ①新型コロナウイルス感染症患者の積極的な受入れ（2021年度～）
- ②名古屋市との連携を深化させ、名古屋市における感染症医療機関の役割の遂行（2021年度～）
- ③将来の新規感染症発生時に備えた人材育成の推進（2021年度～）

## (8) 大規模災害に備える取り組みの強化

附属病院群の連携を強化し、地域の医療機関とも円滑な連携を行い、市民に必要な医療を提供する災害対応システムを構築することで、感染症パンデミックも含めた災害時に対する強靱な組織創生を進めます。

名市大未来プラン2021 5-(4)

### 【実行項目】

- ①相互にアクセス権限がある同一電子カルテを用いることなどにより、附属病院群で相互に不足や障害を補い合える連携を構築（2022年度～）
- ②尿を飲料水、生活用水に改良する機器の開発（2029年度～）
- ③BCPの更新など災害時に救急医療を継続できる体制の常時アップデート（2021年度～）
- ④DMATメンバーの計画的育成（2021年度～）

## (9) 高い専門性と倫理観を有する多様な医療人およびそのリーダーの養成

高い専門性と倫理観を持って活躍できる多様な人材を育成し、質の高い医療を安定して提供します。すべての職種から職場として選ばれる病院、研修医・専攻医から研修病院として選ばれる病院を目指します。専門医取得後は附属病院群および地域医療でのリーダーを目指すためのキャリアパス支援を行います。

名市大未来プラン2021 5-(5)

### 【実行項目】

- ①附属病院群の連携による特徴ある医療人育成プログラムの構築（2024年度～）
- ②手術技術向上部の設置（2022年度～）
- ③医学研究科との連携による国内外留学システムの構築（2024年度～）
- ④卒前教育を臨床現場で行う機会の充実（2023年度～）
- ⑤専門薬剤師・認定薬剤師の資格維持と取得希望者への育成支援（2021年度～）
- ⑥看護実践報告、研究発表、論文投稿などを推進し、看護の専門性を活かした医療ニーズに対応できる人材の育成（2022年度～）
- ⑦各種認定資格を積極的に取得し、高い専門的な技術と知識を持った技師を育成（2021年度～）
- ⑧倫理講演会や勉強会の充実（2021年度～）
- ⑨安全な医療の提供のために、附属病院群による医療安全に関する活動連携（2021年度～）
- ⑩病院経営・医療倫理・コーチング研修などリーダーシップ涵養の推進（2023年度～）
- ⑪ダイバーシティを進め、仕事と家庭生活との両立を支援するための雇用環境の整備（2023年度～）



## (10) 大学・研究機関へのビッグデータの提供および大学が持つ高度情報技術・ロボット技術の活用

附属病院群がもつビッグデータを、有効かつ安全に研究・活用できるシステムを構築するとともに、得られた成果を市民へ還元します。

名市大未来プラン2021 5-(6)

### 【実行項目】

- ①「低侵襲手術検討部会」を設立し、低侵襲手術に関するデータ蓄積並びに分析を行い、低侵襲手術のさらなるスキルアップと安全性を向上（2022年度～）
- ②データサイエンス学部（仮称）と連携して、ビッグデータを有効かつ安全に研究活用できるためのフレームの整備（2024年度～）
- ③学生が高度技術習得に興味を持つようなインターンシップ等のシステム整備（2024年度～）
- ④診療情報、医療材料・医薬品等の物流データ、労務管理データ等の有効活用。得られた結果・成果を評価・フィードバックし医療の質の向上および経営の効率化（2024年度～）

## (11) 研究の推進と附属病院群のスケールメリットの活用

附属病院群間の臨床研究ネットワークを構築します。1病院1診療科で実施していた臨床研究・治験を附属病院群全てで同時に実施可能なプラットフォームを創出します。

名市大未来プラン2021 5-(7)

### 【実行項目】

- ①附属病院群のIRBの統一（2022年度～）
- ②臨床研究を活性化させるための1,800床を活用した臨床研究・治験ネットワークの構築（2023年度～）
- ③附属病院群の臨床研究・論文作成について研究者の立場に立った支援システムの構築（2025年度～）
- ④臨床研究の活性化のための、積極的なインフラ整備と人材登用（2023年度～）
- ⑤獲得した外部資金による基礎研究が東部医療センター内で行えるよう、東部医療センター基礎研究室の設置推進（2024年度～）

## (12) 安定経営のための経営改革・組織改革の推進

ガバナンスを強化し病院経営に精通した人材を確保・育成し、経営分析力を高め、先進的な経営手法を導入して収益の向上を図ります。安定した経営を基盤に高度・先進医療を推進して東部医療センターのブランド化を進め、病院の収益向上に循環するようなスキームを構築します。

名市大未来プラン2021 5-(8)

### 【実行項目】

- ①経営分析力の強化による、診療報酬の改定に対応した収益の確保  
(2021年度～)
- ②医薬材料の一括購入を推進し、コストを圧縮することによる収益力強化  
(2021年度～)
- ③入院前連携を進めることにより安定した患者確保に努め、収益基盤強化  
(2022年度～)
- ④各職種ごとに経営観念を持ち、業務改善を各職種で検討し実行 (2021年度～)
- ⑤医師事務作業補助者の積極的活用による、医師がより診療に専念できる環境の形成と働き方改革の実践 (2022年度～)
- ⑥レセプト業務の内製化に向けたアクションプランの作成 (2023年度～)
- ⑦職員満足度を高め、東部医療センター職員であることのプライドの形成 (2021年度～)
- ⑧戦略的広報活動による当院の先進性や地域貢献度の見える化 (2021年度～)